

リニア環境未来都市に関わる提言

平成28年8月8日

リニア環境未来都市検討委員会

リニア中央新幹線の開業は、国内外との交流の拡大を通じて定住人口の増加や新たな産業の創出など、本県の将来にわたる発展の契機となることが期待されている。

この開業効果を全県で享受していくため、リニア環境未来都市の創造は、今後の山梨を考えていく上で、大変重要な課題である。

本委員会では、リニア環境未来都市の創造に向け、これまでの検討を踏まえる中で、基本的な内容や目指す姿と取り組みの在り方などについて、過去5回にわたり幅広く議論を重ねてきた。

この度、本検討委員会において検討してきた内容について、取りまとめ提言することとした。

なお、リニア開業後の将来にわたるリニア環境未来都市の創造に向けては、社会経済情勢や民間需要の動向などを踏まえるとともに、関係市町のまちづくりとの整合性を図りながら、官民一体となって取り組みを進めることを期待する。

平成28年8月8日

リニア環境未来都市検討委員会

委員長 北村 眞一

委員 大山 勲

齊藤 義明

篠沢 健太

島崎 洋一

角野 幹男

田中 久雄

樋口 雄一

松野 範子

溝口 悦子

- 目次 -

提言

全体像	P 1
定住	P 2
産業	P 3
エネルギー	P 4
景観	P 5
観光・交流	P 6
土地利用	P 7
リニア駅との交通アクセス	P 8

(参考資料)

リニア環境未来都市の概要

委員名簿

審議経過

リニア環境未来都市検討委員会からの提言

全体像

リニア環境未来都市は、リニア駅から4 km程度を範囲とし、駅周辺（駅から200 m～300 m程度の範囲）と駅近郊（駅周辺以外の場所）から構成される。

リニア開業を契機として、全県的にリニア効果を波及させ山梨の発展につなげていくためには、本県の強みである安心で潤いのある生活環境や豊かな自然環境、豊富な自然エネルギーなどを最大限発揮していくことが重要であり、その先導的な役割を担うのがリニア駅周辺を核としたリニア環境未来都市である。

リニア環境未来都市では、定住人口の増加や産業の振興、効率的なエネルギー利用、観光・交流の拡大などに向けた先進的・モデル的な取り組みを行い、環境と共生し、新たなライフスタイルが展開する都市の創造を目指していく。

このリニア環境未来都市の創造に向けては、定住、産業、エネルギー、景観、観光・交流、土地利用、リニア駅との交通アクセスの7つの要素がポイントになるものとする。

定住に関する提言

リニア環境未来都市では、定住人口の増加のため、大都市圏への通勤など新たなライフスタイルが進展する中で、山梨らしい魅力ある住環境を整えるとともに、子育て支援の充実やリニア通勤の利便性向上などに取り組んでいくことが望ましい。

1．住環境の整備

- ・リニア通勤者、二地域居住者、田舎で暮らしたい移住者など、多様なニーズに合わせた、住みたいと思える場所にすることが重要である。また、都会では得られない、豊かな自然環境に加え、本県の地域資源を磨き上げることで、山梨らしい魅力ある住環境にしていくことが重要である。

2．子育て支援の充実と情報発信

- ・子どもを産み育てる世代が山梨に移住・定住してもらえるよう、保育や教育に関する多様なニーズに対応する子育て環境の充実を図り、子育てのしやすいまちということを積極的に情報発信することが重要である。

3．リニア通勤への支援

- ・大都市圏からの移住を促すため、リニア駅に停車するリニアの増便をJR東海に要請することや、リニア通勤者の経済的負担を軽減することが重要である。

産業に関する提言

リニア環境未来都市では、山梨にふさわしい産業分野を見極めたうえで、リニア開業による時間短縮効果を生かして、県内の企業や企業誘致による新産業・成長産業の集積を促進し、未来のものづくりをリードする本県の戦略拠点形成のための取り組みを進めるとともに、駅周辺では工業技術センターなどとも連携する中で、研究や起業（創業）が活発に行われるような機能の整備が望ましい。

1．集積分野の選択

- ・有望な産業分野である健康長寿関連など複数の分野の産業集積を促進するシナリオを作成し、民間企業を含めて実現可能性について検討していく中で、山梨にふさわしい産業を見極めることが重要である。

2．起業（創業）支援

- ・研究や起業（創業）が活発に行われる場所として効果的なインキュベーション機能等の整備については、企業ニーズをしっかりと把握することが重要である。

エネルギーに関する提言

リニア環境未来都市では、都市全体のエネルギー需給を考える視点を持つ中で、様々な技術による効率的・効果的なエネルギーの利活用に取り組み、低炭素なまちづくりを進めることが望ましい。

1．次世代エネルギーシステムの導入

- ・電力や冷温熱などのエネルギーを効果的に活用するため、建物単位ではなく面的に利活用するシステムの導入が重要である。
- ・燃料電池など山梨の地域特性を生かした自家発電設備など、災害に強く環境にも調和した自立・分散型エネルギーシステムを導入することが重要である。

2．最先端技術の活用

- ・情報通信技術を生かした電力網のスマート化や照明のLED化、空調では地中熱ヒートポンプの活用など、最先端の省エネ技術を導入することが重要である。

3．次世代自動車の普及

- ・電気自動車や燃料電池自動車などクリーンエネルギーを活用した次世代自動車を普及させ、低炭素なまちづくりに結びつけることが重要である。

景観に関する提言

リニア環境未来都市では、地域住民、事業者、行政など様々な主体が連携し、豊かな自然と調和した山梨らしい景観形成に取り組むことが望ましい。

1．盆地の山並みを生かした景観

- ・盆地の特徴である魅力ある山並みの眺望を妨げないよう、施設の高さに配慮することが重要である。

2．緑、フルーツ・フラワーを生かした景観

- ・リニア駅周辺は、山梨らしさを感じる緑や山梨を象徴するフルーツ・フラワーを生かした景観形成に取り組むことが重要である。

3．地域住民との協働による景観づくり

- ・地域の特色を生かした山梨らしい農村景観や美しい都市景観などを形成するためには、地域住民との協働が重要である。

観光・交流に関する提言

リニア環境未来都市では、リニアを活用した観光・交流の拡大を図るため、山梨らしい魅力を備えた機能的な観光交流施設の設置や様々な役割を持つ宿泊施設を誘致することが望ましい。

1．機能的な観光交流施設の整備

- ・施設に備えるコンテンツが、山梨らしさの情報発信や利用者の増加に大切な要素となるため、県外の人から見た山梨らしさの視点も取り入れ、小規模でも日本初の魅力的な店舗を誘致することが重要である。
- ・施設と駅との一体性を図る中で、ぶどう棚など山梨らしさを演出することが重要である。
- ・子どもや障がい者、外国人などに配慮したユニバーサルデザインの考えに基づいた施設にすることが重要である。
- ・行政の出張窓口や保育施設などの設置により、地域住民にとっても利便性の高い施設にしていくことが重要である。
- ・リニア駅周辺に整備する他の施設や機能の利用を考慮し、施設の配置や動線を考えることが重要である。
- ・地震等の避難場所にもなるよう、防災面に配慮することが重要である。

2．周遊観光の促進

- ・国内外の観光客が、富士山やワイナリーなど魅力ある地域資源を求めて円滑に県内各地を周遊できるよう、適切な情報提供やワンストップサービスなどを行うことが重要である。

3．宿泊施設の誘致

- ・来県者の様々なニーズに応えるとともに、災害時の対応も担うホテルなどの宿泊施設を誘致することが重要である。

土地利用に関する提言

リニア環境未来都市の実現を目指し魅力ある地域づくりを進め定住人口の増加につなげていくためには、地域住民との合意形成を図りながら地域のまちづくりに沿った都市的土地利用を図ることが望ましい。

1．土地利用コントロール

- ・将来の土地開発に備えるため、土地利用規制の緩い地域における土地利用のコントロールに十分配慮することが重要である。

2．都市的土地利用

- ・駅近郊における都市的土地利用への転換に当たっては、徒歩圏を中心に検討することが重要であるとともに、土地利用に際しては、地域住民との合意形成を図りながら都市計画の様々な手法を活用していくことが重要である。
- ・土地利用の転換を図る際には、水害などの防災面に配慮することが重要である。

リニア駅との交通アクセスに関する提言

リニア環境未来都市では、リニア中央新幹線の効果を県内全域に波及させるため、短時間でリニア駅を結ぶアクセス圏域の拡大とターミナル機能の充実を図ることが望ましい。

1．リニア駅と県内各地を結びネットワークを形成する道路の整備

- ・リニア中央新幹線の効果を県全体で最大限享受していくため、中央道スマートインターチェンジの整備をはじめ、リニア駅と県内各地を結びネットワークを形成する道路の整備が重要である。

2．リニア駅のターミナル的機能の確保

- ・本県の新たな玄関口として、リニア駅から県内各地への移動を円滑にするため、利便性の高いバスなどの二次交通を整えることが重要である。

3．リニア駅と甲府駅とを結ぶ交通システムなどの整備

- ・リニア駅と甲府駅を円滑に移動するため、速達性や定時性が確保されるよう、道路整備と併せ交通システムの整備が重要である。

4．リニア駅と身延線駅を結ぶアクセスの強化

- ・リニア駅と身延線駅とのアクセス強化のため、リニア駅と身延線駅を連絡する道路の整備やバス交通を確保することが重要である。

(参考資料)

リニア環境未来都市の概要

環境との共生や新たなライフスタイルが展開するリニア環境未来都市を創造し、これを起爆剤として、全県的にリニア効果を波及させ、山梨の発展につなげていく。

1. リニア環境未来都市の位置づけ

全国初の高速道路と新幹線が直結する立地環境を生かし、本県の発展に向けた取り組みが展開される

国内外の人々との活発な交流や活動の拡大につながるリニア効果を全県に波及

豊かな自然・景観など山梨らしさを最大限生かした本県の魅力を発信
本県の持つ強みを発揮した将来展望の実現を先導

2. リニア環境未来都市の対象エリア

リニア環境未来都市の対象エリアは、リニア駅を日常的に利用する人々の生活や行動を勘案し、リニア駅から4km程度の範囲

そのうち、中核となる駅周辺(駅から200m~300m程度の範囲)と、リニア通勤者などの生活やリニア中央新幹線を活用した新たな産業の集積の場となる駅近郊(駅周辺以外の場所)から構成

3 . 駅周辺及び駅近郊の役割

(1) リニア駅周辺の役割

本県の新たな玄関口として、県内各地との円滑な移動を確保するとともに、様々な交流や活動の拡大を推進

沿線各駅との差別化を図るため、山梨らしさを最大限生かし、本県の魅力を発信する新たな駅前空間として、国内外に広くアピール

駅近郊の地域住民をはじめ広く県民にとっても魅力ある空間を提供

(2) リニア駅近郊の役割

リニア駅やスマートインターチェンジに近接する立地環境、全国トップレベルの支援策などを活用し、産業の振興や定住の促進など、本県の発展に向けた取り組みを推進

スポーツを通じた交流の拡大や魅力の発信など、新たな取り組みを展開

委員名簿

氏名	所属・役職等	備考
北村 眞一	山梨大学地域未来創造センター センター長	委員長
大山 勲	山梨大学大学院 教授	副委員長
齊藤 義明	(株)野村総合研究所 未来創発センター 2030年研究室 室長	
篠沢 健太	工学院大学 教授	
島崎 洋一	山梨大学大学院 准教授	
角野 幹男	昭和町長	
田中 久雄	中央市長	
樋口 雄一	甲府市長	
松野 範子	輿石建築一級設計事務所	
溝口 悦子	(株)セラヴィリゾート泉郷・清里高原ホテル コンシェルジュ	

(委員は50音順、敬称略)

審議経過

(第1回)平成27年8月12日(水)

リニア中央新幹線の計画概要とリニア駅周辺整備に係るこれまでの検討状況について

リニア環境未来都市整備方針策定に向けた検討とスケジュールについて

(第2回)平成27年12月3日(木)

リニア環境未来都市の整備方針と検討内容について
県の関連施策について

アイデア募集結果及びアンケート結果(速報)について
テーマ毎の検討事項について

(第3回)平成28年3月28日(月)

リニア環境未来都市の検討内容(素案)について

(第4回)平成28年5月24日(火)

リニア環境未来都市の検討について

- ・駅周辺の整備について
- ・駅近郊のあり方について

(第5回)平成28年7月26日(火)

リニア環境未来都市に関わる提言のとりまとめについて

審議経過の詳細につきましては、山梨県HPをご参照ください。

山梨県リニア推進課 リニア環境未来都市検討委員会

(http://www.pref.yamanashi.jp/linear-kt/committee_env_future_area.html)